

図書館だより

令和5年度 第2回 愛媛県立小松高等学校 研修図書課



今年度が始まり、半年が経ちました。1年生は、学校生活に慣れたでしょうか。2年生は、そろそろ来年、進路に向けていろいろと考えているでしょうか。3年生は、それぞれの進路に向けて準備を進めているでしょうか。秋が深くなりつつあり、落ち着いて読書する良い季節となりました。

時間があるときに、ぜひ本をとってみてください。



前期図書委員より



今年度も、温芳図書館におすすめ本の展示を行いました。図書委員のおすすめ本ということもあり、みなさんにとって読みやすい本が図書館入口正面に展示されています。

10月に、今年度2度目の展示をしています。様々なジャンルの本が展示されています。

ぜひ一度、温芳図書館へ足を運んでみてください。

朝の読書について

朝8時40分からの5分間は、朝読書の時間です。

まだまだ、ぎりぎりに登校して時間に余裕がない人が多く、落ち着いた時間を過ごせていないようです。

規則正しい生活から、朝のたった5分を捻出できるように、普段の生活を見直してみましょう。

後期図書委員では、みなさんが朝読書で何を读んでいるのか調査してみようと考えています。まだ本を選択できていない人は、本校図書館などを活用し、愛読書を見つけられるようにしましょう。



小松高祭りについて

図書委員会では、ポスターの展示や古本市を開催する予定です。

家に読まなくなった本、不要になった本を回収したいと考えています。

10月24日までに、各クラスの担任の先生、図書委員担当の杉田先生、司書教諭の田所先生に持ってきてください。何冊でも構いません。

※ 雑誌、漫画は除きます。

ご協力、よろしくお願いいたします。



私の愛読書

今年度、本校に新しく赴任された先生方から、愛読書を紹介していただきます。

☆☆ 田井 修一 先生より ☆☆ 『反逆』 遠藤 周作 著



己の力に寸分の疑いを持たず、神をも恐れぬ織田信長の家臣であった荒木村重・明智光秀の心に揺らめく反逆の光が克明に描写されています。信長への憎しみ、恐れ、コンプレックス、嫉妬、強き者に翻弄される弱気者たちの論理と心理の描き方が絶妙であり、何度となく読み返しました。歴史に興味があってもなくても、時代劇や大河ドラマなどであまりとりあげられることのない人物（高山右近や光秀の娘など）のかかわりについても描かれており、最後まで興味と関心を失うことなく読むことができます。

「もしあの時・・・」なんてことはよく考えますが、そこが歴史の面白いところです。遠藤先生の代表作だと思いますので、是非一度読んでみてください。

老眼が出てからは読書するのが億劫となりました。



☆☆ 渡部 裕也 先生より ☆☆ 『コミュニケーション力』 齋藤 孝 著



皆さんは、今までの人生の中で、社会で上手く生きていくためには、「コミュニケーション力がとても大切である。」ということをごどこかで聞いたり、人から言われたりした経験はありませんか？私は、この本を教員になった1年目に購入しました。まさに、社会に出るときです。教員になって18年目ですが、今でも朝読書の時間や家で手に取って読むことがあるくらい素敵な本です。

この本は、話の流れをつかむ「文脈力」や傾きと相槌を通して、生きたコミュニケーションとは何なのか？また、対話の喜びと沈黙の深い意味まで考察できる1冊となっています。この本いわく、コミュニケーションは「生命の源」であるとのこと。この続きは、ぜひ、手に取って読んでみてください。あなたの人生が変わるかもしれませんよ。



図書館だより

